

平成29年度

専門委員会だより

魅力ある委員会づくり

専門委員長会を開催

専門委員長が集まり、各専門委員会活動についての情報交換を行いました。

市P協専門委員長メンバー（敬称略）

組織・運営	辻本 真也子（魚崎小）
広報	三浦 国英（高取台中）
研修	宮澤 清志（西舞子小）
健全育成	武田 笑子（葺合中）
家庭教育	松村 昌寛（池田小）



（上左から松村 武田 宮澤 三浦 辻本）



🌿 神戸市PTA協議会の専門委員会とは 🌿

神戸市PTA協議会の専門委員会は、神戸市PTA協議会組織の中で、唯一単位PTAとの接点がある部分です。専門委員会は、「組織・運営」「広報」「研修」「健全育成」「家庭教育」の5つがあり、各委員会は、神戸市立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の5つの校種から、各区や各連合会から推薦された単位PTA（以下単P）の本部役員、26～28人で構成されています。委員長、副委員長も単P会長でもあるので、単Pや区、連合会等のPTA活動での話題や課題について、それぞれの委員会が特性を生かした中で話し合っていきます。委員会活動は、一つの結果を求めるのではなく、話し合っていく過程が大変重要視されており、PTA活動の活性化と、自己研さんや全市的な異校種での交流、情報交換、仲間作りが、大きな目的でもあります。

平成 29 年度の専門委員会

「子どもたちの笑顔のために」を平成 29 年度の神戸市 P T A 協議会の活動方針として掲げ、その趣旨に則って各委員会活動は独自の切り口で 1 年間の活動を進めます。

市 P 協が、近畿ブロック、指定都市、全国規模での会議で、情報収集や情報交換を行うように、全国でも珍しいとされる 5 校種 P T A 連合会が一つに集う場としての専門委員会では、幅広い課題を 5 つの部会に分けて専門性を持たせ、月 1 回のペースで情報提供や情報交換を行っています。

区や校種の多様性が活かされるこの活動については、委員から市 P 連、区 P 連や単位への報告や話し合いの場を設け、反映させていただきたいと常に望んでいます。

毎月の専門委員会のテーマや進め方で工夫したことは・・・

5 つの専門委員会が、具体的にどのような活動を行っているのかを紹介します。

【組織・運営】

今年度の大きなテーマは「P T A どうしてる？」サブテーマは～他校の P T A を知り、自校の P T A をより良く～と決め、自分の学校の P T A 活動を客観的に捉えることから始めました。

まず 7 月には「P T A の課題・問題点」というテーマで話しやすい人数に分け、ディスカッションしました。やはり問題になるところは永遠の課題の「役員決め」であることが浮き彫りになり、9 月には、「本部役員の決め方・任期について」にテーマを絞り話し合いました。各校の規約についても話し合い、自校の P T A の当たり前がそうでなかったり、また、改めて自校の P T A の良さもわかったりなど、毎回目からうろこが落ちる内容となっています。10 月は少し視点を変えようと、元校長先生にお越しいただき、「P T A の存在意義～時代や地域にどう対応していくか～」という講義をしていただきました。小学校に新たに P T A を作った経験もある先生で、P T A の必要性を感じ取ることができました。それを基に 11 月には、



組織・運営専門委員会 会議風景

「P T A (本部)に関わったきっかけ、やって良かった事」をテーマに、意見を付箋に書き出しながらディスカッションをしました。P T A 活動を通じ、地域や学校の橋渡しであることを実感し、また人との関わりの中で自己成長できる貴重な場なのだと改めて感じました。

【広報】

「これまでの広報紙とは違ったものを作ろう」を委員会のスローガンにし、メンバーが色々アイデアを出し、特集記事内容、紙面レイアウト、色遣いなど工夫しました。

月 1 回のペースで会議を行い、年 3 回発行のうち、2 回分を担当し、第 121 号(10 月発行)では「あぶない!! あなたの身体は大丈夫?」と題し、大人から子供まで、体を動かすことの大切さや運動の効果、体力作りについて楽しく紹介しました。第 122 号(2 月)ではコミュニケーションの大切さを特集したいと思っています。表紙を飾る特集記事は導入部分となるので、できるだけ会員の皆さんにとって身近で関心のあるテーマを選びました。

単なる取材報告とならないように、コミュニケーションについて神戸市教育委員会学校教育課から講義いただき、委員会としても自己研鑽にも努めました。



編集会議風景(広報専門委員会)

【研修】

委員会としての目標を「5 校種合同研修会を成功させよう」と掲げ、目下、内容を詰めています。

7 月は、テーマを決めず、くじ引きでグループを分け、好きなことを話し合い。コミュニケーション作りを中心に進めました。その中から、「ふれあい よりそい ささえあい」という、自然に出てきた言葉が今回の 5 校種合同研修会のメインテーマとなりました。

9 月からは研修会に向けて進めていく中、5 校種合同研修会での運営を念頭に、実習を兼ねた、神戸市教育委員会主催「P T A 人権研修会」(12 月 7 日)の運営補助を行ない、参加者への対応などを学び取りました。

今年度の5校種合同研修会は1月23日(火)開催です。PTAや、保護者が楽しくおしゃべりしながら情報交換ができるように、4つの分科会形式で行います。

食育・障がい者教育・PTA自慢・子供とのコミュニケーション方法を題材に取り上げ、縦(校種別)横(区別)の幅広い情報共有を図ることで、今後の単位PTA運営のヒントになればと思っています。



PTA人権研修会で運営を学ぶ(研修専門委員会)

【健全育成】

市P協の基本方針として25年度から継続されている「大人のどうとく」を大きなテーマに、良いことも疑問に思うことも、何でも自由に話し合える仲間作りを基本に、討議を行ないました。ある時は全員が輪になって一言ずつ、またある時はワールドカフェ形式でなど、誰もが全員と関わることができるように、討議の仕方を工夫し、テーマについても、「大人のマナー」「子育て」「スマホトラブル」「保護者同士のつきあい」「地域行事」…などなど、その時々に出た話を次回へ、というリレー式で、楽しめる委員会を目指しました。

「PTAあるある」をテーマに、自分の学校園のPTA自慢や、困っていることを各自付箋に書き出して、発表内容のテンション別に貼り付けていく会議では、困っていることも楽しそうに話すので、笑いがおこったり、同感する内容に頷いたり、もうすっかり仲間です。



健全育成専門委員会のグループディスカッションの発表

【家庭教育】

市P協の基本方針、努力目標の実現を基本に、年間テーマは特に定めず、毎回話し合うたびにテーマを決め、主に基調講座とグループ討議をセットで行いました。

家庭教育という切り口から、「思春期・反抗期」「いじめ」「食育」など、家庭での子育てに関わることをテーマに、主に行政の方からテーマに沿った講座を聞き、その後グループ討議を行うことで、深く広く知識を広げることができました。ディスカッションでは話題が煮詰まらないよう「ワールドカフェ形式」も取り入れてみました。



家庭教育専門委員会での講座

専門委員会を通じて知ったこと

初めて専門委員会に参加して、不安に思ったり、戸惑ったりするのは、委員ではありません。委員長、副委員長も同じです。またその上、会をまとめるという立場にあることへのプレッシャーも感じています。

しかしながらどの委員会も、正副だけで進めず、委員の方からの「これを話したい」「こうやった方が」という意見を積極的に取り入れながら、会全体で試行錯誤しながらも協力し合い、それぞれの委員会らしきを作り上げていきます。

【組織・運営】

話し合いの中から感じたこととして、絶対的な正解があるわけではない、ということ。始めはそれでいいのかと考えたこともありました。

他のPTAのあり方、改善、改革方法を聞いたり、自校のPTAの悩みを話したりすることで、多くの情報交換や意見交換ができ、その中で解決の糸口を見つけられることもできます。他校の頑張り、皆の刺激にも励みにもなり、改めて、誰の、また何のためのPTA活動かということを再認識できたような気がします。

【広報】

5校種、また各区から様々な立場の方が集まってくるので、考え方も多種多様です。意見一つとっても、とても興味深い。

個人としても大変参考になりましたし、広報紙という、一つのものを皆で作上げる難しさや奥深さ、そして楽しさ、すべてが勉強になります。皆で122号の完成を目指します。

【研修】

12月のPTA人権研修会を通じて得られたことは少なくないと思います。これから携わる「5校種合同研修会」でも同じように何かを得ることができると思っています。例えば、このような全市的な研修会の運営方法もその一つです。

定例委員会の運営については、資料送付やHPで、会を欠席される方への、会進行状況の情報提供で、いつ参加しても、すんなり入り込めるようにする配慮など、学ぶところがたくさんありました。今は5校種合同研修会が一番の課題であるため、活気ある委員会となって、毎回出席率も高くやりがいや連携を感じて進めていただいています。



5校種合同研修会に向けて(研修専門委員会)

【健全育成】

毎回、一つのテーマで話し合う中で5校種それぞれの「違い」を感じる委員会です。家庭教育専門委員会との違いを明確にするため、家庭を一步出た時の、子供への接し方や行事参加、親のモラルなど、様々なことをテーマにしました。

「LINE」に関するトラブルは、子供だけではなく保護者間でもあることや、校種によって学校の先生への保護者の言葉遣いの違いも興味深いものでした。また地域性がはっきり表れる「餅つき行事」はこのテーマだけでも充分盛り上がりしました。

今年は校種をまたぎ長くPTA本部に関わられる方も多く、初めて参加される方のリード役にな

っていただき、また自身の経験による校種別PTAの違いはとても説得力がありました。

【家庭教育】

初めての専門委員会で、進め方に不安はありましたが、今年は、講座とディスカッションのセットでいくことで、委員の皆さんにも多くの情報提供ができたと思います。

「思春期・反抗期」の講座で聞いた、「正しい子育てには、BETTERはあるが、BESTはない！」

「正しいことは休み休み言え」「子は親の鏡」という言葉が今も一番心に残っています。

情報交換

情報交換(要旨)

「初めは緊張して、気構えて、使命感で…でも、もうあと数回。毎回ここへ来るのが楽しみになっていました」。

委員の方が最後の場面で必ず言われる言葉です。難しいことを黙って聞いて帰ることより、情報交換や意見交換で得られることこそが、とても大切だったと気づきます。

区Pや市P連合会から推薦された委員ではありますが、本来は「自分の学校ではこうだけど、他のPTAはどうなの?」そんな軽い気持ちで参加していただくことで充分なのです。

しかし、時代とともに、平日の午前中開催の委員会への参加が難しくなってきているのも事実です。5校種という特徴的な組織でもあり、幼稚園や特別支援のPTAへの配慮もあり、このような日程になっていますが、曜日などを固定した開催を避けるなど委員会も工夫しています。

専門委員会は、PTA活動の活性と資質向上のヒントを得ることや、連帯感を培うことができる場であるとともに、子育てに関わるあらゆる課題や情報を、親として学べる場でもあります。

そのためにも委員会の内容をできるだけお伝えできるよう、また委員の皆さんが参加しやすく、魅力ある委員会作りを、これからも進めていきたいと思います。

平成30年3月13日(火)に、今年度の各専門委員会の1年間の活動を報告する、専門委員会総会が開催されます。

専門委員会の任期は5月末までですが、自主的な活動は3月の専門委員会総会で、一旦終了となります。委員会活動で得たことや、委員同士つながりを、活動発表会という形でお伝えしたいと考え、学校園PTAの皆様へ広くお声かけをいたします。ぜひ、ご興味のある方はご応募ください。

特に、30年度から専門委員として参加予定の学校園PTAの本部役員の皆さまには、足をお運びいただきたいと思います。

各学校園へのご案内は2月初旬の予定です。また専門委員会活動は、神戸市PTA協議会公式HPからもご覧いただけます。(「神戸市PTA協議会」で検索)

